科目ナンバリング	U-LAS02 20030 LJ37						
授業科目名<英訳>	言語構造機能論 The Structures and Functions of Language			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　守田　貴弘		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	木3	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

さまざまな言語現象を進化の観点から捉えることを目的とする．一般的に言語は文文法 (sentence grammar)の観点から分析されることが多いものの，face to faceのコミュニケーションを前提とした機能も組み込まれていると考えることができる．言語学の基礎的知識も学びながら，コミュニケーション機能がどのように文法として実装されているのかを考えていく．

[到達目標]

・言語学の基礎的な知識を説明できるようになる．基礎的知識を持っている人にとっては，学際的分野としての言語研究の理解が深まる．
・言語学での議論の仕方が理解できる．
・授業で中心的に扱う言語は日本語，英語，フランス語 (その他ロマンス系)，ドイツ語あたりだが，その他にも多様な言語が存在することが理解できる．

[授業計画と内容]

本講義はフィードバックを含めて15回の講義で行う．なお，進度や受講生の反応に応じて取り扱うテーマのボリュームは適宜変更する可能性がある．

第1回：言語のdesign features
第2回：記号の種類と機能，そして言語記号
第3回：文文法としての言語の捉え方
第4回：対人関係を調整する手段，ダイクシスという概念
第5回：終助詞の分析1：主要な説の概略
第6回：終助詞の分析2：何に反応した使い分けなのか
第7回：終助詞の分析3：文文法との接合を考える
第8回：人の呼び方のあれこれ1：日本語に人称代名詞はあるか
第9回：人の呼び方のあれこれ2：egoの範囲
第10回：人の呼び方のあれこれ3：類型化は可能か
第11回：ダイクシス動詞とその使用範囲1：来る, come, venirなどの話
第12回：ダイクシス動詞とその使用範囲2：到着する場所の範囲
第13回：ダイクシス動詞とその使用範囲3：「おいで」は「来る」の命令形か
第14回：design features再訪
第15回：フィードバック

[履修要件]

特になし

言語構造機能論(2)へ続く↓↓↓

言語構造機能論(2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間中に課す小レポート(4，5回)：50%
試験：50%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・小レポートの作成にあたっては自身の言語行動を反省し，できるだけオリジナルの例を挙げながら論を進めること.
・言語学は例文を証拠として主張を正当化していくため，「自分がこう感じる」「自分の感覚ではこういう意味だ」ということを実証するためには何が証拠として必要になるのか，ということを考えるように心がけてください.

[その他（オフィスアワー等）]

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]